



6. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 肉用牛肥育経営の大規模化

指標名	肉用牛肥育経営1戸当たりの飼養頭数	指標の種類
指標式	肉用肥育牛飼養頭数/肉用牛肥育経営戸数	●成果指標 ○業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度
目標a		39	40	41	42	43	44	44
実績b	39		②データ等の出典					
東北	56	畜産統計（農林水産省、各年2月1日現在）						
全国	119							

③把握する時期 ○当該年度中 月 ●翌年度 08月 ○翌々年度 月

指標II

指標名		指標の種類
指標式		○成果指標 ○業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度
目標a								
実績b			②データ等の出典					
東北								
全国								

③把握する時期 ○当該年度中 月 ○翌年度 月 ○翌々年度 月

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

**事業の必要性**

**現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性**

本県肉用牛の全国メジャー化を図るためには、オール秋田の新ブランドを早急に確立し本県の特長を活かした産地づくりが不可欠である。特に、全国共進会で名声を博した県有種雄牛「義平福」については、本県肉用牛の広告塔と位置づけ、産子の県内肥育を積極的に進める必要がある。

**住民ニーズに照らした事業の必要性**

県域を対象とした肉用牛ブランドの確立に際し、関係団体からは、県の強力なリーダーシップの下での調整を求める声大きい。また、全国から注目を集めている「義平福」産子については、人気が集まり価格が高騰しているため、導入にあたって特別な支援を求める声大きい。

**事業の県関与の必要性**

法令・条例上の義務  内部管理事務  県でなければ実施できないもの

民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

県域を対象とした新ブランドの基準づくりなどに必要な調整や意見集約は、中立公平な立場で臨める県以外になし得ない。また、県有種雄牛の活用を進める施策でもあり、県が積極的に推進する必要がある。

政策評価委員会意見	重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定
○重点事業	○その他